

柏原市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針（案）に対する意見募集（パブリックコメント）の実施結果

No	コメント内容（概要もしくは、一部抜粋）	コメントに対する市の考え方
1	<p>まず初めに、中学校の校区ありきで話を進めているが、校区を取っ払って、広い視点から将来の学校の在り方を考えるべきだと思う。自治体として一つの学校を運営するために、教員の給与・施設維持費としてどれぐらいの費用が掛かっているのかが知りたい。決して裕福でない自治体なのだから、将来の住民にかかってくる費用の観点から積極的に再編統合を検討すべきだと思う。</p> <p>将来予測として、基本方針13ページ・16ページ・19ページ等においてマンションの建設に伴う児童増加を挙げているが、ライオンズマンションが建設された際は柏原市内からの引っ越しのかたが多かったと聞いている。市外から児童が増えるわけではなく、柏原市内の横移動なのであれば、児童増加は見込めないのではないか。また、基本方針12ページでは、住環境整備や雇用機会の確保に伴う、若い子育て世代の人口構成割合の高まりを児童増加の理由として挙げているが、客観的なソースを提示していただきたい。少なくとも一市民の実感として、若い子育て世代の人口構成割合の高まりは感じない。</p> <p>さらに表1の推移予測には、小学受験・中学受験し、住民でありながら市外の学校に通う生徒について、どのように計算しているのか。令和4年度柏原中学校でいえば、柏原東小の6年2クラスと柏原小3クラスが中学校に進学しても3クラス編成となった。これは、およそ小学校2クラス分の児童が中学受験によって市外の中学校に進学したことを示す。実際に出生している子どもの数＝小中学校に進学する児童数ではない。全体的に予測が甘く、実際には1学年1クラスとなってしまう学年が増加すると思われる。</p> <p>上記のことを踏まえて、2点意見を述べたい。柏原東小・堅下小・堅下北小は近接した地域に小学校が密接しすぎる。現状でも1クラス30人に満たないのだから、3校を2校に再編し、学区の再編を行うべき。</p> <p>堅下北中学校と堅下南中学校は統合し1校にすべき。なお、堅下南中学校は校区が広く現状であっても通学の道が児童の負担となっているのであれば、自転車通学・スクールバスを導入すべき。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>この度の、柏原市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針は、児童生徒のより良い教育環境の実現のために、児童生徒数や学級数とともに、地域とともにある学校、小中一貫教育の推進という視点から検討してまいりました。今後少子化が更に進むことが予想される中、教育委員会といたしましても学校規模の適正化や学校の小規模化に伴う諸問題への対応については、継続的な検討が必要であると考えており、社会情勢や人口推計の変化に注視しながら、本方針を概ね5年毎に見直すこととしております。</p>